

テーマ：北方領土（実践校）

オホーツク管内 湧別町立湧別小学校（5年生で実施）

■本実践のポイント（概要）

- ・北方領土に関する映像資料や複数の資料を関連させながら、北方領土の歴史、元島民の思い、ロシアとの関係性について多角的に学びました。我が国最大の歴史問題である北方領土に対する思いを膨ませ、「湧別町に住む人たちにも伝えたい」という思いを育みました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

（1）課題の設定

学習指導要領解説社会科編 第5学年の目標(2)と児童の実態を基に、「さまざまな立場から社会事象について考え、起きている問題等について正しく理解する力」を付けさせ、それと同時に「北方領土問題について正しく理解して、自分たちでできることを考える」という課題を設定しました。

（2）情報の収集

子どもたちの思考や表現を支える資料として、映画「ジョバンニの島」「教科書」「北海道新聞の記事（まなぶん）」「武蔵村山市の北方領土について深める学習資料」を用意しました。

映画「ジョバンニの島」を視聴して、当時の島民の悲しさや苦しきなどの思いを感じ、戦争への憎しみ、ロシアへの反感を抱く子もいました。しかし、資料を根拠に「ロシアがなぜ不法な占拠を続けるのか」について話し合い、相手の国の考え方にも興味を持ち、互いが理解を深めていくことが解決の第一歩になることに気付きました。

（3）整理・分析

映像や複数の資料を関連付け、多面的に考えていきました。
「北方領土問題において、これから心配されることは、日本が粘り強く交渉してきたことを忘れてしまうことである」と問題点を分析し、今後の対応の在り方等を整理しました。

（4）まとめ・その後

自分たちが学んだことを表現するために、目的に合わせて必要な内容を考えたり、表現方法を選択したりして、ポスターやチラシに学んだことをまとめました。その後、町内の各施設に設置しました。元島民の方を始め様々な反応があり、子どもたちは学びへの充実感と達成感を得ることができました。



【映画「ジョバンニの島」視聴の様子】



【学んだことを生かして作成したポスター】

②児童の感想等

- ・一番の問題は「北方領土に対する意識がどんどん薄まっていくことである」ということに気付くことができました。
- ・日本が北方領土を取り返したら、そこに住むロシアの小さな子どもたちに同じ思いをさせてしまうかもしれません。でも、絶対に北方領土について忘れないことが大事だと思います。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 北方領土の場所と名前が一致する程度の理解しかありませんでしたが、北方領土の歴史、元島民の思い、ロシアとの関係性について学び、北方領土問題について多角的に理解することができました。
- 北方領土に関するアンケートで「今、住んでいる地域や歴史について関心がある」と回答した児童の割合が78%から92%に、「北方領土の自然や歴史、領土の返還についてもっと調べたいと思う。」と回答した児童の割合が65%から96%に増加しました。
- 北海道の魅力を再発見するために、我が国最大の歴史問題である「北方領土」を視点に学ぶことが重要です。ふるさと教育・環境教育に力を入れ、北海道の魅力を語れる子どもたちを育てていくための手立てを検討する必要があります。